

「課題名：体腔液塗沫染色標本の鏡検方法についての検討」について

○ 研究の意義・目的

体腔液の鏡検方法において、当院の鏡検方法と日本臨床衛生検査技師会穿刺液検査標準化ワーキンググループの標準化法（以下標準化法とする）を比較し、当院の鏡検方法が簡便で標準法と同様に腫瘍細胞を検出できる分類方法であることを明らかにします。

○ 研究対象者

2021年4月1日から2024年12月31日までに、広島大学病院検査部で通常診療において体腔液目視分類の依頼があった患者さんを対象とします。

○ 研究方法

本研究は、体腔液目視分類の依頼があった患者の体腔液引き止め標本、塗り伸ばし標本を当院の鏡検方法と標準化法でそれぞれ分類します。既存の標本を観察するのみで新たに染色やその他検査を追加することはありません。標本を観察し、当院の鏡検方法を用いた場合と標準法を用いた場合での分類の違いや腫瘍細胞の検出率を比較します。研究にあたり、診療録（カルテ）情報の転記を行います。

カルテから転記する内容は、検体採取年月日の他、年齢、性別、血液検査（血球数、肝機能検査、腎機能検査等）、病理検査（細胞診断・組織診断）、診断名、治療歴、既往歴のうち測定されたものです。本学単独で行う研究のため、他の機関へ情報の提供は行いません。

（個人が特定出来る情報は転記しません）

○ 試料・情報の管理責任者

広島大学病院検査部 准教授 茂久田 翔

○ 利用開始予定日：実施許可日以降

○ 研究期間 2023年6月9日（実施許可日）～2025年3月31日

○ 個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には、提供していただいた情報や、試料に基づくデータを結果から取り除くことができない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人を識別できる情報は含まれません。

不明な点がございましたら下記のところまでお問い合わせください。

* 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。

.....

お問い合わせ先

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5541

広島大学病院検査部 准教授 茂久田 翔（研究責任者）

診療支援部 臨床検査技師 毎田 昇平（担当者）